

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 8 回相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会				
事務局 (担当課)		健康福祉局こども育成部こども青少年課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 1 (直通)				
開催日時		平成 2 8 年 7 月 2 2 日 (金) 午後 7 時から 8 時 2 0 分まで				
開催場所		ウェルネスさがみはら 7 階 視聴覚室				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	7 人 (こども育成部長、他 6 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 こども育成部長あいさつ 3 議 題 ( 1 ) 市母子保健計画の進捗状況について ( 2 ) 平成 2 7 年度こんにちは赤ちゃん事業の実施状況について 4 そ の 他 5 閉 会				

主な内容は次のとおり。【 は委員の発言、 は事務局の発言】

## 1 開 会

## 2 こども育成部長あいさつ

## 3 議題

### ( 1 ) 市母子保健計画の進捗状況について

資料に基づき、担当課から説明を行った。

未実施の2事業は実施しなかったということか。

未実施ということではなく、他の事業と統合したものである。

文部科学省の事業としては、スクールカウンセラーと同時にスクールソーシャルワーカーの配置を推進しているが、この計画にはスクールソーシャルワーカーの活用について位置づけはないようだが、見直しの中での検討課題となっていないのか。

現計画の計画期間は29年度までとなっており、30年度以降の計画について今年度から見直しを行っていくが、本日の様々なご意見等を踏まえ、検討していきたいと考えている。

市には様々な相談窓口があるが、所管部署が異なっているため、それぞれが対応している整理がされていないと思う。事業周知や相談窓口を増やすという中では、整理や他分野との共同を母子保健の取り組みの中だけではなく、市全体として取り組むことができれば、もう少し効果が上がるのではないかと思う。

学校では、不登校の場合には青少年相談センター、虐待等は児童相談所、子育てに関してはこども家庭相談課ということで相談窓口を分けているので、その辺は整理されているのではないかと思う。ただ、複合した相談の対応については整理してもらった方がいいと思う。

今年度はスクールカウンセラーの勤務時間が少し制限をされているので、記載にある「学校の教職員と情報共有を図る」ということでは、昨年度より難しい部分があると思う。財政的な面もあるが、学校としては本当に助かっているので、改善をお願いしたいと思う。

概括的に見て子ども達の状況は厳しくなっていると思うが、そのような理解でいいのか。保育所や学校の現場において、支援が必要なお子さんが増えてきている中で、様々な相談機関が連携をしていかなければいけない状況になってきていると思う。

学校の方では、子ども達の状況についてはどのような認識を持っているのか。

統計的には不登校自体はそれほど急激に伸びているわけではなく、減っている方向であ

る。スクールカウンセラーには不登校の生徒を中心に見てもらっているが、それ以外にも自傷行為をする生徒など、心配な生徒に対しても関わってもらっている。

地域福祉を考えていく中で、中学生や高校生が入ってくるものがあまりない状況であり、そのような子ども達と繋がりを持つことができないか考える必要があると思った。

高校生や貧困家庭などには、地域にも居場所がないお子さんが増えてきている状況もあるので、行政としてもそのような子ども達の居場所づくりを地域とよく連携を取りながら進めていくことが非常に大事だと思っている。

高校生の居場所づくりは昔から進んでいないと思うので、その辺りの取り組みもお願いしたい。

子どもの貧困対策を切り口にして居場所のことを今後進めていきたいと思う。

公民館では様々な活動をしており、3年ぐらい前から特に家庭教育の問題などに対して取り組んでいるが、生涯学習での公民館活動と福祉の児童福祉育成がもう少し融合していく必要があると感じているので、活性化するようなサポートを両方で考えていただきたいと思う。

7年ほど子ども達の悩みの手紙に返事を書いており、当初はいじめの問題が多かったが、最近は多岐にわたっている。不登校の問題だけではなく、たくさんの悩みを抱えた子ども達が多いということを学校の先生にも承知しておいていただきたいと思う。

「妊娠前教室の実施」については、周知も難しいと思うが2回で26人というのは参加者が少ないと思う。

広報など様々なことで周知を行っているが、対象層に向けた周知については課題があり、少し力をいれていかないといけないと考えている。

妊娠に関する正しい認識について、子どもが健全に生まれてくるように、新しい知見に基づいた広報をしていただきたいと思う。

## ( 2 ) 平成27年度こにちは赤ちゃん事業の実施状況について

資料に基づき、担当課から説明を行った。

こにちは赤ちゃん事業で訪問できないのはどのような理由なのか。

以前に比べて訪問を拒否する方は減ってきているが、訪問しても不在の家庭もある。

訪問率には4か月児健診で確認した数も含まれているのか。

こにちは赤ちゃん事業の訪問数である。

こにちは赤ちゃん事業で心配される方や会えない方に対しては、別事業でフォローしているということか。

そのような方については、4か月児健診でお母さんとお子さんの様子や育児状況を確認しており、それでも全く確認が出来ない方については、4か月児健診終了後に夜間を含めた訪問をさせていただいている。それでも様々な事情があって養育環境が定まらない方もかなりいるので、そのような方については連絡をとって最終的に不適切な養育環境

だと判断した場合は通告という形をとっている。

4 その他

- ・次回の分科会については、10月頃の開催を予定し、詳細が決まり次第、通知させていただくこととした。

5 閉 会

児童福祉専門分科会 委員名簿

(平成28年7月22日)

番号	氏名	役職・推薦団体	備考	出欠席
1	はら ひろこ 原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
2	とつか ひであき 戸塚 英明	相模原市社会福祉協議会		出席
3	うちだ のりこ 内田 紀子	相模原市私立保育園園長会		出席
4	かわさき ひさし 川崎 永	相模原市幼稚園協会		欠席
5	ひらの ひろこ 平野 裕子	相模原市母子寡婦福祉協議会		出席
6	おおみぞ しげる 大溝 茂	桜美林大学教授	専門分科会長	出席
7	ふくだ すみこ 福田 須美子	相模女子大学名誉教授	職務代理	出席
8	さくらい なつこ 櫻井 奈津子	和泉短期大学教授		出席
9	あいざわ ゆみ 相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
10	しながわ よういち 品川 洋一	相模原市医師会		出席
11	いしざか みちこ 石坂 美智子	相模原市立小学校長会		欠席
12	あしざわ すすむ 芦沢 進	相模原市立中学校長会		出席